

事務事業マネジメントシート(平成30年度実績と平成31年度計画)

令和 2 年 3 月 2 日 更新

事務事業名		関東合志会運営支援事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	1	自治の健康				所属部	総務部	課長名	牧野 淳一
	施策	1	市民参画によるまちづくりの推進				所属課	秘書政策課	担当者名	中村 亮
	施策の柱	2	地域づくり(まちづくり)活動機会の確保				所属班	秘書政策班	(内線)	1213
予算科目		会計一般	款 2	項 1	目 1	事業連番 10338	根拠法令			
終了、開始年度		☐ 30年度で終了 ☐ 30年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	合志市出身及び合志市にゆかりのある関東在住の人々が相集い、ふるさと合志市の発展と会員相互の親睦を深めるため、年1回総会及び交流会、年2～3回程度の役員会が開催されており、その運営に対する支援を行う。平成3年に関東在住の西合志町出身者・合志町出身者の方がふるさとを思う同郷の方が集まる場が欲しいとの要望からそれぞれの町で開始されていたが、平成18年合併して合志市となり関東合志会として新たに発足した。
【業務の流れ】	会の運営に対する補助金の交付。また、市長、議長、担当職員等が関東合志会会員が集う年1回(8月)の総会及び懇親会へ参加し、合志市の近況報告、ふるさと納税のお願い、物産品の紹介などを行い、会員との情報交換を行う。また、希望者へは市の広報紙を毎月、送付している(郵送料は自己負担)
【主な予算費目】	【款】2総務費 【項】1総務管理費 【目】1一般管理費 【節】9旅費 10交際費 19補助金
【意見や要望】	合志市の状況を市長から直接詳細に聞くことができるため、ふるさとを想う気持ちが強まる。また、市側も情報を提供することにより特産物などのPR活動に繋がるいい機会にもなる。継続を望む声強い。また、議会から事業の改革を検討するように要望されている。そのため担当課が上京の折に、関東合志会の事務局と協議を行なったが、事務局側も現状には満足されていない。出来るだけ合志市のアピールを関東地区で行なえるよう会員の増加と協力者を募ることを行なってみようとの提案があった。議会からは、市内・関東地方での広報、また進学・就職時におけるサポートの可能性について質問があり、市HPのほか知り合いの紹介などツテや口コミによる周知、サポートについては「東京ネットワーク」とのつながりや情報交換を行っていくよう回答している。

1 現状把握の部 (DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 30年度実績(30年度に行った主な活動) (DO)	31年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
総会へ参加をし会員との交流や市発展のための協力依頼を行った。市からは市長、副市長が参加をした。補助金額は324,000円。	総会へ市からも参加し、会員との交流や市発展のための協力依頼、また、ふるさと納税の依頼を行う。	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
⇒ ア: 総会など開催回数	回	前年度実績で計上した。
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
⇒ イ: 関東合志会会員	⇒ ア: 関東合志会会員数	人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
⇒ ア: 市長と直接会い、市の情報を定期的に得ることにより、遠く離れた故郷への想いを持ち続けることができる。また会員相互の連帯感も生まれる。	⇒ ア: 総会等の会合への参加割合	%
*③成果指標設定の理由と31年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	28年度 実績(決算)	29年度 実績(決算)	30年度 目標(当初予算)	30年度 実績(決算)	31年度 目標(当初予算)	2年度 予定	3年度 見込	4年度 見込
① 活動指標	⇒ ア	回	1	1	1	1	1	1	1	1
② 対象指標	⇒ ア	人	185	185	185	176	185	185	185	185
③ 成果指標	⇒ ア	%	55	55	60	49	60	60	60	60
投 入 費 量	財 源 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	463	488	534	479	480	474	474
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	463	488	534	479	480	474	474
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		正職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2	2
人 件 費	延べ業務時間	延べ業務時間	時間	16	60	20	80	20	0	0
		(B) 人件費計	千円	59	237	79	315	79	0	0
	トータルコスト(A)+(B)		千円	522	725	613	794	559	474	474

事務事業名	関東合志会運営支援事業	所属部	総務部	所属課	秘書政策課
-------	-------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は30年度の後評価、ただし複数年度事業は30年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①30年度目標達成度評価	☐ 達成した ☒ 達成しなかった ⇒【理由】 平成30年度は市長・都市建設部長が総会に出席したが会員全体が高齢化している。実会員は減少しているものの会員名簿には登録されているため、高齢等による参加者の減少により、目標を達成できなかった。
	②31年度目標達成見込み	☐ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☒ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 会自体の平均年齢が年々上昇しており、退会する会員が増えてきたことに加え、新たな会員の加入が少なく会員が減少しているため、目標達成は難しいと見込んでいる。
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 合志市出身者を把握し、会への支援（運営費補助をはじめ広報等で周知を行い加入促進を促す）を行うことにより会員の確保・拡充を図る。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 他に類似する事業がない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 最小限度の補助金による支援である。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限の人員の参加である。また、アウトソーシングはなじまない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 会員全員が対象である。また、総会参加費や広報発送料は個人の自己負担であり公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 支援事業であるため、民間への移行は難しい。

3 評価結果の総括（CHECK）

高齢化による参加者の減少はあるが、関東で合志市の情報が少ない中、市から市長、都市建設部長が参加し、合志市の現状や現在の取り組み、出来事などを知らせるとともに、いろんな場で活躍されている方々との交流を図ることが出来た。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可					(2) 改革・改善による期待成果																									
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善）					(廃止・休止の場合は記入不要)																									
☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善）																														
☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）																														
					<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>							コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																												
		削減	維持	増加																										
成果	向上																													
	維持		○																											
	低下																													

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策